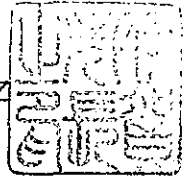


伊道第 2113 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局
局長 金井 道夫 様

三重県伊賀市
市長 今岡 睦之



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

国道企第37号 平成20年9月19日付でご依頼のありましたみだしのこ
とについて、伊賀市の意見・提案としまして別添のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ①

① 伊賀市の道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

三重県伊賀市

伊賀市の道路網の骨格は、名阪道路のほか国道5路線（国道25号、163号、165号、368号、422号）、主要地方道11路線、一般県道28路線から成り、広域的な交流を支える都市間幹線道として、また市民の日常的な生活行動や生産活動を支える基盤として重要な役割を担っています。

なかでも、名阪国道は、自動車専用道路として地域経済に大きく寄与しているとともに、中部圏、近畿圏を結ぶ国土軸として、名神高速道路の代替機能の役割を果たしてきています。しかし、近年、日交通量が6.3万台を超え、大型混入率が58%と利用車両の大型化が著しく、また交通事故も依然として減少せず、周辺道路を含め交通停滞が生じているため、自動車専用道路として求められている安全性、快適性、利便性に支障を来しているため、走行車両の安全性の向上、定時制の確保、道路利用者サービスの向上、沿道的生活環境保全等を求めて、本線路肩拡幅など高規格化整備をはじめ、側道整備、インターチェンジ改良、遮音壁の設置が望まれます。

今後、伊賀地域は南北軸の整備が遅れているため、名阪国道と名神高速道路を連結する道路整備を強化していく必要があります。

②—1 伊賀市の道路の現状と抱える課題

三重県伊賀市

伊賀市域の面積は558km²、その中で県管理の国道88.6%、県道58.8%の改良率となっていますが、市道においては、4,416路線、実延長が2,193kmであり、改良率は24.5%にとどまっています。未改良道路が多いことから、市民生活に密着した道路整備が強く望まれています。

特に、道路整備の課題は、本市の産業、文化等の交流を一層推進するための市域を短時間で結ぶ道路網の構築や日常生活区域内の道路交通安全対策などであり、地域まちづくりの振興につながる道路整備が必要です。

渋滞がなく、市内がスムーズに行き来できる道路整備を利用者から求められています。特に、安全で快適な道路をつくることは、歩行者に対してもドライバーに対しても安全を確保しなければならない。又、歩道が安全に歩けない箇所があるため、利用者から早急な対応が求められています。

②ー２、③ 伊賀地域の目指すべき将来像及び道路施策の重点事項

三重県伊賀市

伊賀地域、甲賀地域は個々に特徴ある生活圏を形成しており、それぞれの地域を名阪国道、新名神高速道路といった幹線道路が東西方向に通過しており、中部圏、近畿圏を結ぶ大動脈が通過する地域です。

しかしながら、南北方向を結ぶ幹線道路網が希薄なうえ、県境付近の丘陵地に位置するという地理・地形的制約から、三重県内の津・四日市地域から比べると地域の格差が広がる傾向であります。

その対策として、平成１８年８月に伊賀市と甲賀市に関わる地域課題への対応や交流連携等の推進を図るため「広域連携推進委員会」を設置し、両市の発展と地域住民のニーズに応えるため、下記３つのインターの連絡網の整備の必要性をまとめております。

- １）新名神信楽 IC～名阪国道上野 IC アクセス（国道４２２号三田坂バイパス整備・国道３６８号４車線化整備）
- ２）新名神甲南 IC～名阪国道壬生野 IC アクセス（県道甲南阿山伊賀線整備）
- ３）新名神甲賀土山 IC～名阪国道上柘植 IC アクセス（名神名阪連絡道路「忍者道路」）

★ この中でも、名神名阪連絡道路「忍者道路」については、三重県の民間団体「みえの道女性会議」及び伊賀市の民間団体「いがの道女性会議」滋賀県甲賀市の民間団体「名神名阪連絡道路の整備区間に格上げする会」・「甲賀のみち女性会議」の取組みに合わせ、伊賀市としても真に必要な道路であり重点化を進める上で特に優先度が高く取組んでいる道路であります。

★ 名神名阪連絡道路は、北陸自動車道や伊勢道と一体となって日本海から太平洋に至る南北軸を形成し、東近江地域・甲賀地域・伊賀地域からなる地域集積圏の形成・魅力ある定住地域づくりを支援するとともに、東西方向の高速道路ネットワークの連結による道路網の機能強化や広域的な交流を促進する重要な幹線軸であります。

◎ 整備効果としては次のことが考えられます。

☆ 沿線地域では活発な企業立地が期待されるとともに、公共交通サービス水準が低い沿線地域内の移動の利便性を高め、医療施設までの移動時間の短縮、合併市町村のまちづくりにおける貢献も期待される。

☆ 広域の貨物物流や旅客流動の活性化、遠方からの観光客数の増加、防災活動、救急医療や行政間連携などの広域連携の進展が期待される。

☆ 東西方向の幹線道路を相互に連絡することにより、中部・近畿間の移動において多用なルートが選択可能となる。

☆ 名神高速道路、新名神高速道路、名阪国道の雪害等による通行止めとなった場合、迂回路の一部として機能する。